

本校には国際交流の一環として「短期交換留学」制度があります。本年度は3月初旬にアメリカ（シド・コースト）に出発する1名を含めると、計16名の生徒たちが「交換留学生」として海外へ派遣されることになります。昨年、カナダ（ヴァーノン地区）への交換留学も実現し、新たに1校が加わりましたが、平成11年から始まった国際交流、派遣された生徒と受け入れた生徒と合わせると、500名を越えています。

## 国際交流500人が海を渡りました。



うう」といふことに日脚が伸び、春が近づいていふという実感があります。三が日は穏やかな日が続きました。その三日間で、久しぶりに長編小説を読むことができました。今回は、昨年、直木賞と本屋大賞を受賞した恩田睦さんの『蜜蜂と遠雷』を選びました。年齢を重ねるにしたがつて、しだいに感動することが少なくなり、涙を流すこともめったにない今日です。しかし、この作品を読んでいると、共感し、登場人物に感情移入してしまうことが多くありました。作品に登場するそれぞれの人たちが、国際ピアノコンクールではからずも一堂に会することになるのですが、ライバルとしてお互いを意識しつつ、真の友達として心の交流が深められていきます。そして、予選通過の階段をのぼるにつれて、その演奏が上質のものに塗り変わっていく姿に、人間が抱いていた願望が重なっていきます。その表現にいたつては、ピアニッシモからはじまりクリシェンドで感動のフォルティシモへと、読者をうならせる驚異の描写を遺憾なく發揮していると思いました。たとえばラフマニノフの「音の絵作品第五曲アパッショナート変ホ短調」の演奏に対し、次のような描写がありました。「一音一音にあつしりと哲学や世界観のようなものが詰め込まれ、なおかつみずみずしい。それは固まっているのではなく、常に音の水面下ではマグマのように熱く流動的な想念が鼓動している。音楽それ自体が有機体のように『生きて』いる」

演奏を通して、これまでの人生を反芻し、次の道しるべとなる圧巻の作品だと思いました。

何事も、挑戦することは大きな苦しみが伴います。本文にもあるように、「弾けども弾けども足踏みばかりで、ちつとも前に進まない時がある。これがもう限界なのかと絶望する時間がいつ果てるともなく続く。しかし、ある日突然、次の段階に上がる瞬間がやってくる。なぜか、突然、今まで弾けなかつたものが弾けてくるのに気づく。それは喻えようのない感激と驚きだ」これこそ努力の積み重ねによって得られる感激だと思います。そして、何よりもこの作品に登場してくるクラシック音楽の名曲をぜひ聴いてみたいと強く思つたことです。バッハの「平均律クラヴィア曲集第一巻第一番」、モーツアルト「ピアノ・ソナタ第十三番」、ショパン「バラード第一番」などを。あらためて、前へ進む勇気を与えてくれると思います。薄暗い森を抜けて、見晴らしのよい場所に立つたかのように。

## 新しい年を迎えて

学校長 藤森陽子



### 初めり見るものすべてあらたまる

陽子

一月は、小寒、大寒と寒さが一段と厳しくなります。それでも、日を追ううとに日脚が伸び、春が近づいていふという実感があります。

三が日は穏やかな日が続きました。その三日間で、久しぶりに長編小説を読むことができました。今回は、昨年、直木賞と本屋大賞を受賞した恩田睦さんの『蜜蜂と遠雷』を選びました。年齢を重ねるにしたがつて、しだいに感動することが少

なくなり、涙を流すこともめったにない今日です。しかし、この作品を読んでいると、共感し、登場人物に感情移入してしまうことが多くありました。作品に登場するそれぞれの人たちが、国際ピアノコンクールではからずも一堂に会することになるのですが、ライバルとしてお互いを意識しつつ、真の友達として心の交流が深められていきます。そして、予選通過の階段をのぼるにつれて、

その演奏が上質のものに塗り変わっていく姿に、人間が抱いていた願望が重なっていきます。その表現にいたつては、ピアニッシモからはじまりクリシェンドで感動のフォルティシモへと、読者をうならせる驚異の描写を遺憾なく發揮していると思いました。たとえばラフマニノフの「音の絵作品第五曲アパッショナート変ホ短調」の演奏に対し、次のような描写がありました。

「一音一音にあつしりと哲学や世界観のようなものが詰め込まれ、なおかつみずみずしい。それは固まっているのではなく、常に音の水面下ではマグマのように熱く流動的な想念が鼓動している。音楽それ自体が有機体のように『生きて』いる」



1月号  
(第352号)

武庫川女子大学  
附属中学校・高等学校  
総務部

カナダで学んできた平川愛華さん（高1）の言葉です。  
「私はこのプログラムで二度の短期交換留学と6人の留学生の受け入れをさせていただきました。カナダ人、アイルランド人、アメリカ人、ニュージーランド人や韓国人など母国語や文化が多様な留学生を受け入れてきました。みんな英語が話せて同年代だったので話が尽きることなく、帰った後も頻繁に連絡を取り合っています。日本で大きな災害があつたときは、ニュースを見て電話をくれて心強く感じました。それ以来私も世界のニュースに注目するようになりました。」

短期留学や、海外からの留学生の受け入れは英語力が向上するだけでなく、世界中に友だちができる、自分の価値観や考え方広がり、将来のことを考えられるとてもよい機会だと思います。今後、様々な形で世界の人や英語と関わることがたくさんあると思います。「百聞は一見にしかず」という言葉のよう、中学、高校の間にさらに色々な世界を自分の目で見ていかたいと思います」

（写真は昨年のものやや）

### SSH成果発表会

12月23日（土）、中央キャンパスMM館および中央図書館で行われました。午前中は、科学交流合宿研修会報告、卒業生お二人によるリレー講演、お昼休みには、中学1年生から高校3年生まで全学年生徒がポスター発表を、そして、午後からは、各学年サイエンスツアーレポートに

続き、高校生の研究発表、締め括りは、高校3年生の英語での発表・ディスカッションを行われました。生徒からも「高校3年生の英語での発表が格好良かった」「発表は大変だったけれど貴重な体験ができ、SSH校の生徒でよかったです」と充実した笑顔で話していました。



### 発表会・講演会へぜひ来場ください

2月に発表会や講演会を予定しています。会場はすべて中央キャンパスの公江記念講堂（入場無料）です。お誘い合わせのうえ、ぜひ来場ください。

#### SSH公開講演会

「見えないひかりでみる宇宙～アンデスの大電波望遠鏡ALMAで探る宇宙～」

ALMAは、南米・チリの標高5000mにある巨大電波望遠鏡です。66台のパラボラアンテナを組み合わせ、宇宙からの電波を高感度で受信して様々

な天体を高解像度で描き出します。日本を含む国際共同プロジェクトの現状や最新の観測成果について紹介します。



#### コーラス部「第14回音楽会」

音楽会では今年度のコンクール曲や「美女と野獣」ミュージカル仕立てのメドレー。「くちびるに歌を」などを演奏します。コーラス部の1年間の集大成であり高校3年生にとって最後の大切な舞台です。

日時：2月4日（日）13時15分開場 14時開演  
紹介します。  
講師：阪本成一氏（国立天文台教授 チリ観測所所長 東京大学教授 理学博士）



生徒にとっては、日々学んできた英語を披露する場であるとともに、見てくださる方々にも楽しんでいただけるよう、早くから準備を重ねてきました。

#### SE発表会

生徒にとっては、日々学んできた英語を披露する場であるとともに、見てくださる方々にも楽しんでいただけるよう、早くから準備を重ねてきました。

#### SE発表会

12月23日（土）、尼崎総合医療センターで高校コラス部がクリスマスコンサートを行いました。今年で6回目になります。

ロビーでは「少年時代」「愛は勝つ」などの名曲ソングメドレー、そしてクリスマスマソングを歌いました。車いすの方、点滴を打ちながら聴いてください。ソングメドレーでは患者さんとの間に入つて歌いましたが、おじいさんは涙を流しておられ、私たちまで感激しました。

#### 元気になつてください！ 病院でクリスマスコンサート

高校2年 三枝あゆ

12月23日（土）、尼崎総合医療センターで高校コラス部がクリスマスコンサートを行いました。今年

で6回目になります。

ロビーでは「少年時代」「愛は勝つ」などの名曲ソングメドレー、そしてクリスマスマソングを歌いました。車いすの方、点滴を打ちながら聴いてください。

ソングメドレーでは患者さんとの間に入つて歌いましたが、おじいさんは涙を流しておられ、私たちまで感激しました。

小児科ではディズニー

アンパンマンの曲を歌い、お母さんの腕に抱かれていた小さな子から小学生の子まで、たくさんの子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしました。少しでも喜んでもらえたならと思い、手作りの折り紙をプレゼントしました。



